

標準臨床検査医学 第5版

高木 康(監), 山田 俊幸, 大西 宏明(編)

群馬大名誉教授

村上 正巳

臨床検査医学を学ぶ人のための
教科書の決定版

臨床検査医学は、全ての診療科に関連した医療の根幹をなす学問分野で、医療のどのような専門領域においてもその知識と素養は不可欠である。診療においては通常、医療面接と身体診察を行い、必要な検査を実施し、診断、治療が行われ、治療後の経過観察においても検査が実施される。臨床検査は、画像検査とともに診療に必要・不可欠なツールである。

『標準臨床検査医学』の初版は1987年に上梓され、臨床検査医学の代表的な教科書として版を重ねてきた。2013年に第4版が刊行されてから10年が経過し、今回版を新たにすることは大きな意義がある。この10年の間にわが国の臨床検査を取り巻く環境にさまざまな変化がみられた。2018年に検体検査の品質・精度の確保に関連した医療法等の一部を改正する法律が施行され、臨床検査の品質・精度を確保するための施設基準や方法が明確化されるとともに、遺伝子関連検査・染色体検査が一次分類に位置付けられた。また、2019年に初めて報告された新型コロナウイルス感染症はパンデミックとなり、わが国においても医療提供体制の逼迫を招くなど未曾有の事態となった。新型コロナウイルス感染症の対策において、核酸検査や抗原検査などの検査法の開発と普及、検体採取の方法、検査精度の確保、検査試薬と機器の供給体制、臨床検査に携わる人材の育成など、臨床検査の課題と役割が広く一般に理解されるようになったものと思われる。

本書では読者の理解を助けるためのさまざまな工夫がみられ、今回の第5版からオールカラーとなり、ビジュアル面での充実が図られている。

第I編「臨床検査医学の基礎」では、臨床検査医学の総論として、臨床検査の基礎と検体の採取と保存に関して記述され、臨床検査全体を的確に過不足なく把握できる内容となっている。

第II編「検体検査」では、まず、“全体の理解を助けるために”として検査項目の基本的な事項が述べられ、検査項目の概要、基準範囲(基準値)、異常値を示す疾患・病態とそのメカニズム、関連検査について理解を促すカラーの図表をふんだんに用いて説明されている。新型コロナウイルス検査など最新の情報も随所に盛り込まれ、近年のゲノム医療の進歩を反映して、染色体検査・遺伝子検査が全面改訂され、内容の充実が図られている。

第III編「生理検査」では、腹部と体表臓器の超音波検査の章が新設され、循環機能検査に脈波検査が加わり、神経系の電気生理学的検査に聴性脳幹反応、体性感覚誘発電位、視覚誘発電位が追加されるなど全面改訂されている。

付録では、主要症候・検査による鑑別チャート、図解検査手技やMCQ(multiple choice question)に加えて、新たに日本臨床検査標準協議会(JCCLS)共用基準範囲や医学教育モデル・コア・カリキュラムとの対照表が掲載され、読者の理解を助ける構成となっている。

本書は、医学生に最適の教科書であるのはもちろん、研修医をはじめとする医師、臨床検査技師、薬剤師、看護師ほかメディカルスタッフの方々に広く利用していただける内容となっている。本書を熟読することにより、臨床検査医学の近年の進歩とその奥深さを実感していただけるものと確信する。本書を活用し、臨床検査医学の基本的な知識と素養を身につけていただくことを切に願うものである。



●B5/頁 448/2023 年
定価: 7,480 円
(本体 6,800 円 + 税 10%)
[ISBN978-4-260-04967-2]
医学書院 刊